

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- |     |                                    |
|-----|------------------------------------|
| I   | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び   |
| II  | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成           |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築        |
| IV  | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V   | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成      |

道府県・政令市名【 福岡県 】

1 実践テーマ	【 II、V 】
2 実施対象者	福岡県立早良高等学校 3年生スポーツコミュニケーションコース 19名（男子18名、女子1名）
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（スポーツコミュニケーションコース実習） ② 行事名（ ） ③ その他（ ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 (ねらい)	①パラリンピックスポーツにおけるトップアスリートの講演や指導に触れ、パラリンピックや障がい者スポーツへの理解や関心を深める。 ②2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、生涯に渡ってスポーツへ主体的に関わろうとする態度を育成する。
5 取組内容	【1】講演会・体験会に向けた事前学習 ①日時：平成31年1月18日（金）12:00～12:50 ②場所：3年1組教室 ③内容 ・ブラインドマラソンに関して競技の紹介、説明 ・講師である山下慎治選手の紹介 ・視覚障がいのある方を講師としてお招きするにあたって、どのような配慮が必要か、どのような態度で参加するべきかを考える。  【2】講演会 ①日時：平成31年1月21日（月）13:35～14:25 ②場所：視聴覚室 ③講師：山下 慎治 選手（ブラインドマラソン日本代表） ④演題：『障がいがあった出会い・夢・絆』 ⑤内容 ・山下選手の障がいに関して ・パラリンピックスポーツ、ブラインドマラソンに関して ・山下選手を取り上げたニュース映像の視聴 ・視覚障がいを支える役割（伴走者）の重要性に関して ・視覚障がいの体験（※写真1） ・2020東京パラリンピックを目指す立場から、生徒たちへの

## メッセージ（※写真2）

写真1



写真2



### 【3】ブラインドマラソン体験会

①日時：平成31年1月21日（月）14：35～15：25

②場所：グラウンド

③講師：山下 慎治 選手（ブラインドマラソン日本代表）

④内容

- ・視覚障がい者と同じ状況でコースを走る。
- ・視覚障がい者を支える伴走者の役割も経験する（写真3）
- ・実際に山下選手の伴走を経験する（写真4）

写真3



写真4



### 【4】講演会・体験会を終えての事後指導

①日時：平成31年1月21日（月）15：40～16：00

②場所：3年1組教室

③内容

- ・講演会および体験会の振り返り
- ・ワークシートへの感想記入

★感想記入の観点

ア. 障がい者スポーツやパラリンピックスポーツおよびそれらに取り組むアスリートについて学んだこと・感じたことは何か？

イ. 講演会や体験会で学んだことを、自身の今後の人生やスポーツライフにどのように活かしていきたいか？

<p>6 主な成果</p>	<p><b>①障がい者スポーツへの関心を高めることができた</b>        パラリンピックを目指すトップアスリートに講師として来ていただいたこともあり、講演会・体験会に意欲的に参加する生徒の姿がみてとれた。講演会では山下選手の話に熱心に耳を傾け、メモをとっていた。また体験会では、講演の内容をふまえて、視覚障がい者と伴走者それぞれの役割や責任を経験することができた。参加した生徒たちは、障がい者スポーツの意義や競技性の高さに関して理解を深めるだけでなく、伴走者に代表される障がい者スポーツを「支える」立場の重要性を肌で感じることもできたようである。</p> <p><b>②今後の生き方や他者との関わりについて思考することができた</b>        生徒のワークシートの記述をみると、講演会や体験会に参加しての感想だけでなく、その内容を自身のこれからにどのように活かしていくかについて多く書かれていた。ブラインドマラソンに触れる学習活動を通して得たヒントをもとに、競技や障がいに関してだけでなく、自分自身のことについて思考する姿がみてとれたことは大きな成果である。</p> <p>以下、ワークシートの記述の一部抜粋である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「成功の反対は挑戦しないこと」という言葉が心に残った。これからは失敗しても挑戦し続ける心を持って頑張りたい。</li> <li>・視覚障がい者を支える人の責任がどれだけ重いか分かった。障がいの有無に関わらず、私も人の役に立てる人間になりたい。</li> </ul> <p style="text-align: right;">など</p>
<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p><b>①競技・種目の選定</b>        本実践では、障がい者スポーツに触れ、生徒がその経験からヒントを得て思考に繋げさせることが大きなねらいであった。単に障がい者スポーツの競技者としての側面を体験するだけでなく、「する」ことを「支える」立場も同時に体験させたいと考えたときに、今回はブラインドマラソンを教材として取り上げた。障がい者スポーツの中には、生徒も馴染み深く、関心をもって取り組みやすい競技・種目は他にも多くあるが、場の設定や用具、そして何より思考するためのヒントを生徒全員に均等に与えることができるという点で、ブラインドマラソンという競技は最適であったと考える。</p> <p><b>②合理的配慮の視点</b>        本実践では、視覚障がいのある方が講師として来られることを事前学習で生徒に伝え、参加する立場としてどのような配慮が必要か、どうすれば講演会・体験会を進めやすいと感じてもらえるかを考えさせた。そういった事前学習も踏まえた活動全体を通して、生徒が合理的配慮の視点を獲得し、実践することができるようになることを目指した。実際に、生徒からは「聴覚は敏感だろうから、拳手や額きだけでなく声を出して反応しよう」などの意見を出し、講演会・体験会当日も実行していた。</p>

8 主な課題等	<p>①各運動に関する領域・他教科・学校行事との関連</p> <p>今回の実践が単なる1つの教育活動で終わらぬよう、体育でいえば陸上競技や体育理論、保健でいえば医療・保健・福祉サービスを学ぶ単元などと結び付けながら指導を行うことが重要である。そのためには実施時期なども十分検討する必要がある。また、保健体育だけではなく、他教科や学校行事との関連も図り、生徒にとってより深い学びとなるようにカリキュラムマネジメントを行なっていきたい。</p>
9 来年度以降の実施予定	現段階では特になし